

## 1. はじめに

同志会に入ってそこそこの年数が経ちました。これまで健康教育の実践を上野山先生に教えていただきながらしてきましたが、体育の実践報告はほとんど書いたことがありませんでした。

跳び箱の実践報告をするに至った一番の動機は「実践報告を書かないといけない」からでした。支部大会での実践報告は何にしようと考えたときにひらめいたのが跳び箱でした。なぜ跳び箱だったのかは正直あまり覚えていません。動機がかなり不純ですが、そこから跳び箱の資料や実技例会などで学習するたびに跳び箱の面白さと難しさを感じました。

これまで体育の学習をしてきた中で、跳び箱はいつも横跳び越しを指導してきました。開脚とびよりも横跳び越しを指導する中で、跳び箱が好きになったり、何度も跳び続けているうちに開脚とびもできるようになったりする子どもを見てきました。一方で、主に2学期以降に体育館で取り組むことが多い跳び箱はなかなか時間も取れず、いつも中途半端な学習で終わってしまいがちでした。特に、横跳び越しやそこからの発展技を学習し、最後に発表会をして終わりという流れに落ち着くことが多く、少しもったいない感じがいつもしていました。

そんな中、今回の実践のこだわりにあたる「一瞬を一瞬で終わらせない」跳び箱の学習をめざそうと思ったきっかけは、日名先生がたのスポに書いた跳び箱の原稿『「一瞬」に込められた表現の豊かさと心地よさを』（たのスポ 2018 冬号）の「一瞬」にひっかかったことです。せっかくの表現運動が「一瞬」だけだともったいないなという思いが頭をよぎりました。跳び箱は助走から着地まで数秒で終わる短い表現運動です。一瞬で終わること自体が悪いことではないですが、せっかく学習した成果が数秒で終わるのももったいないし、何より一瞬を見逃すとその素晴らしさもわからないし見つけられないです。一瞬で終わってしまう跳び箱運動を一瞬で終わらせないために、マット運動とのつながりを意識したり、連続で跳び箱を置いて跳んでみたりと、いろいろなことを考えながら実践をしようと決めました。

## 2. 実践を通してのねらい

- ・跳び箱を使っていろいろな方法で跳び越えることができる。
- ・跳び箱を跳び越えるときのルールやポイントがわかる。
- ・グループで音楽跳び箱・マット表現づくりを通して表現の楽しさに気付く。

## 3. 実践の経過

◎1時間目：オリエンテーリング（11月12日）

○跳び箱は表現運動であることを考える

- ・いろいろな方法で跳び越えよう

マット運動が終わって跳び箱の学習をすることになって喜ぶ子数人。あまりいい反応をしない子が多数。どんな跳び方をしたことがあるかを尋ねると、開脚跳びと台上前転の二つができました。何段なら跳べるなどの意見がたくさん出ました。

まずは跳び箱を一段置き、いろいろな方法で跳んでみようとやってみました。4年生でも班で十分にアイデアを出しいろいろな跳び方を考えていました。跳び箱はただ跳ぶだけでなく、自分で跳び方を考えて表現する方法だという話をして、これからいろいろな方法で跳び箱を跳んでいこうと予告をしました。

## 「とび箱」加藤海音

とび箱は跳ぶ運動でもあって、跳び箱は表現する運動だということがわかって、とび箱をとぶときは表現も大事だと思いました。とび箱はなんでもできると思いました。とび箱の上で前転ができたり、ほかにもいろいろできると思いました。

### ◎2時間目（11月15日）

#### ○いろいろな跳び方を考える

- ・1段での跳びこえの方法を考える
- ・1段での跳びのりおりの方法を考える
- ・4段での跳びのりおりの方法を考える

前時の復習の後、跳びこえる（跳び箱の上に乗らない）方法でいろいろな跳び方を考えさせてみました。ジャンプをするときに両足で踏み切ることを教えました。また、跳びのりおり（跳び箱の上に乗ってから降りる）では、跳び箱に乗った後にどのような表現ができるかを考えて取り組ませました。後ろ向きに着地するような跳び方や、降りた後に側転をつなげる子どもでできました。4段にした跳びのりおりに挑戦すると、開脚跳びをする子がでてきたが、跳べない子はなんとか上に乗って降りる技を考えていました。

## 「とび箱」笹峰莉愛

私は体育でわかったことは、とび箱はとぶだけの運動じゃなくて、表現する運動、両足をふみきる運動、手でしっかり支える運動とわかりました。私は保育園くらいから今までとび箱をやってきて、いつも技をしながら高い段がすごいとかやってきたけど、今はとび箱は表現するから、苦手な私でも小さな技を考えることができます。今までとはちがうとび箱。次はどんなことをするか楽しみです。

### ◎3時間目（12月3日）

#### ○後ろ向きに着地するような飛び方を考える

- ・回転系横跳びこしの練習①

前時の復習をした後、授業の真ん中から後半あたりで子どもたちに「普通、跳び箱は前向き着地だけど、後ろ向きに着地できるような跳び方ないか、探してみよう」という発問をしました。どの班も体を動かしながらどうやって後ろ向きに着地できるかを試してみた。最初に一番多かったのは、跳び箱の横をすり抜けて跳び越える技がとても多かったです。横跳びこしの導入で行う技を発見していました。跳び箱の上に一度乗って、後ろ向きに着地する班や子どもたちもいました。

### ◎4時間目（12月4日）

#### ○美しく高い回転系横跳びこしの方法を考える

- ・回転系横跳びこしの練習②

前時の発問の続きを復習で行いました。子どもたちを集め、跳び箱を使って表現するとき、跳び箱の幅（横向きなら広くなるという話も併せて行いました）の中で表現する方がいいという話をして、前時で行っていたような跳び方をレベルアップさせて跳ぶにはどうしたらいいかを考えさせました。しばらく練習を続けると多くの班で回転系横跳びこしの技が見られるようになってきました。そこで、美しく高い回転系横跳びこしをするには体のどこがポイントになるかを見つけてみようという発問で、班で学習をすすめていきました。目線（手と手の間を見ること）や腰の高さ（頭の位置よりも上に腰が来るよ

うに上げること)などを見つけていきました。側転の動きと似ているという意見も出ました。

#### ◎5時間目(12月6日)

##### ○横跳びこしからつながる連続技を考える

- ・回転系横跳びこしからマットの技をつなぐ

復習を行った後、学習してきたマットの技をつなげて表現する子どもも多くいたので、回転系横跳びこしの後に技をつなげてみようという活動を行いました。後ろ向きに着地をするので、多くの子が後転を選んでいましたが、中には着地後くるっと回って側転をする子や前転をする子がいました。でも、前転や特に側転をする際には着地後もたついている様子であまりスムーズに連続技につながっていない印象でした。そこで、回転系横跳びこしをした後すぐ側転したいときにはどうしたらいいかという発問をして、班で考えながらすすめていきました。いろいろなつなぎ方を考えていましたが、どれもあまりスムーズにはつなげられていない印象でした。河合くんが練習中に「前向きに着地しないとできない」とつぶやいていたので、次時につなげていこうと考えていました。

「考え」東野菜々美

私は今日の体育でわかったことは、横跳びこしの後に何ができるかなってときは、前転や後転ができます。でも先生は側転がしたいといっているけど前を向かないといけません。なので私たちの班はこう考えました。横跳びこしをした後すぐに体をひねって側転をするというのを考えました。同じ考えの班もいました。とび箱は見せる運動(演技)です。たくさんの技があるので、とび箱の学習これからがんばりたいです。

#### ◎6時間目(12月11日)

##### ○前向き着地の横跳びこしの方法を考える

- ・切り返し系横跳びこしの練習
- ・切り返し系横跳びこしからマットの技をつなぐ

前時で取り組んだ課題について復習した後、後ろ向きではスムーズには側転ができないことについて考えさせ、前向きならスムーズにできるという河合君たちの意見を参考に切り返し系の横跳びこしを紹介した。班で練習をすすめていくと、切り返し系の横跳びこしの方がやりやすい印象を受けたが、実際に子どもたちに聞いてみるとだいたい半々の意見だった。切り返し系横跳びこしからマットの技をつなぐことにも挑戦すると、多くの子どもがスムーズに側転ができていました。

この時間で一番印象に残ったのが、クラスの中で様々な課題のある村田さんの跳び方です。11月の中旬ごろクラスで村田さんに対するいじめ事案が発覚しました。11月初旬から半分以上の子どもたちが村田さんを傷つけてしまうようなことに関わりがあったことがわかり、厳しく指導しました。子どもたちも大きく反省をし、意識をしている中ででの実践でしたが、彼女が回転系横跳びこしの練習の時からいつも切り返し系の横跳びこしになってしまうのがとても気になっていました。腰がなかなか上がらず、体の使い方がわからない部分があったことと、腰を上げる動作が未習熟で側転もあまり腰が上がっていませんでした。班の子どもたちが一生懸命回転系の横跳びこしを教えるけれどできなくて、でも私の中ではこの後切り返し系の横跳びこしを学習する予定を立てていたのでも、できなくてもいいよという話もその班にはしていました。実際にこの時間に切り返し系の横跳びこしをみんなでするという際には自信を持って跳んでいたのが印象に残っています。クラスで行った年内最後の授業でした。

「連続技」河合僚太郎

ぼくは今日連続技をして思ったことは、やっぱり後ろ向きからではなく前向きから連続技をする方が簡単だと思いました。ぼくが最初にしようとしたのがえんぴつくんから側転だけど、先生から1回だけと言われて側転にしました。なぜえんぴつくんにしなかったかということ1年生みたいだからです。なんかとび箱が楽しくなってきました。

◎7時間目（1月17日）

○リズムに合わせてとび箱を跳びこえ、連続でとび箱を跳びこえる

- ・リズムに合わせて順番に跳ぶ
- ・とび箱を2こ連続でつないで跳ぶ

新しい年になり最初の体育館での体育でした。しばらく時間が空いたので復習をし、この時間からリズムに合わせてとび箱を跳ぶことを意識させていく展開を考えていきました。手拍子に合わせてとび箱一つで班のメンバーで順番に跳ぶ動きを繰り返していると、開脚跳びや横跳びこしなどさまざまな跳び方で跳んでいました。途中で開脚跳び→回転系横跳びこし→切り返し系横跳びこし→班でオリジナルの跳び方の4つの順で跳び続け、その後は技をシャッフルして跳んでいきました。リズムに合わせて跳ぶという意識は少し高まってのように思います。

二つの班を1グループにして2こ連続でとび箱をつなげてみました。グループによって縦向き・横向きは自由でしたが、間にマット1枚を敷き、連続で跳ぶ方法を考えていきました。連続で跳ぶということは、1つめは前向きじゃないと次の技につなげにくいことに気づき、多くの子が開脚跳びもしくは切り返し系横跳びこしの技を選んでいました。2つめを跳んだ後に側転などの技をする子もいて、いろいろな表現を楽しんでいました。

「すれちがう」村井優真

つないでとび箱をすると、最初は前に向いて着地しないと次にとぶときにリズムよくとべないから、前に向ける技をしないといけないとわかりました。次は縦・横ととび箱が置かれていたら、ぼくは縦→横とくり返しとぶと、いろいろな技が見れるし、人と人がすれちがって見ている人も楽しく見れると思います。

「とび箱」橋本夕依

わたしは今日体育で2個連続とび箱をとぶのをしたとき、やっぱりリズムに合わせてとぶのは難しいし、次は何をとぶの？とかごちゃごちゃになってよくわからないことがあったけど、何回もとんで練習していったらリズムに合わせるのはちょっとだけできたけど、次は何をしてとぶのかがわかってきたからどんどん楽しくなってきたから、よかったです。あと、とび箱をとぶのがちょっと上手になったからよかったです。

「いろいろな表現」立川雄大

ぼくは今日の体育で2回続けて技をするには、1回目は前向きに着地しないとスムーズに次の技ができないから、1回目は必ず前向き着地じゃないといけないとわかりました。とび箱が2つあると、とび箱との間も表現できるし、2つともとび箱をとんだ後も最後に表現できるとわかりました。

「全員で…」笹峰莉愛

私はとび箱をして思ったのが、今までは縦1列だったけど、横にもマットをひいたらリズムよくできたり、リズムよくできたら全員でできると思いました。なぜなら、マットみたいにリズムよくしたら縦横からとび箱ができると思っています。私はとび箱が一番大事だなと思うのはリズムが一番とび箱で大事だと思います。

◎8時間目（1月21日）

○跳び箱を縦・横につないでどのように跳びたいかを考えよる

- ・跳び箱をつないで、グループでどんな風に跳びこえたいかを考える

音楽跳び箱・マット表現に向けて前時では縦2こ連続で跳び箱を置いたので、この時間では縦3こ・横2この跳び箱の間にマットを敷いて8人程度のグループでどんな風に跳びたいかを考えさせました。前時までには見通しを持って楽しみながら取り組んでいた子どもたちも、目の前に6個並んだ跳び箱の空間をどう表現していかすごく悩んでいた様子だったと感じます。前の子に続いて同じ技をするグループがあり、6この周りをぐるぐる回るグループなど、空間の設定の仕方に課題があったとも感じます。

悩みながら跳んでいた子どもたちでしたが、ひとつ驚いたことがあります。それは、跳び箱は普通なら一直線（180度）の運動ですが、直角（90度）に跳んで横に移動するために跳んでいる子もいました。なるほどと思いました。3時間目でしていた跳び箱の横をすり抜ける跳び方や、跳びのりおりの際に横に降りるといった動きが多かったです。

授業後、片づけをしているときに笹峰さんが「今日やった跳び箱にもリズムがあると跳びやすい。音楽がいいかも。星野源の『ドラえもん』がいいと思う」という話をしてくれてくれたので、次時に音楽を使って音楽跳び箱・マット表現をしようと考えました。

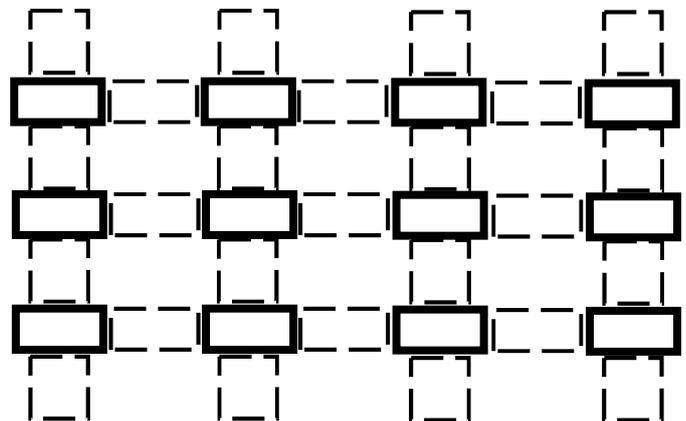
◎9時間目（1月22日）

○音楽跳び箱・マット表現をしよう①

- ・テーマに合わせてグループで跳び箱・マットの表現を考える

前日の夜から激しい腹痛でとても体調が悪くなり、仕事を休もうかと思ったくらいでしたがなんとか行きました。ですが途中から立っていられなくなったりもしましたが、なんとか体育の授業をすることにしました。

体調がすぐれない中、縦3こ・横4この計12この跳び箱の間に等間隔にマットを敷き、この空間の中で『ドラえもん』の曲に合わせておよそ8人グループでどんな演技をしていきたいかを考えさせました。この1時間ではできないと思ったので、朝1時間目の少しを使って説明をし、曲を聞いて大きく5つの構成（Aメロやサビ1など）を考えさせていきました。今振り返るとかなり時間のかかる活動だったと反省をしています



が、限られた時間の中でまずはやってみようという気持ちで取り組んでほしいと伝え、やってもらいました。

4グループの演技を見て一番感じたことは、打ち合わせや練習の時間がとても足りていなかったことです。これについてはもし時間をかければできるという解決が見えるので、それほど深刻ではないと感じました。それ以上に感じた問題は、この跳び箱・マットの配置についてです。詳しくは後述しますが、この跳び箱・マットの配置を進めると決めた以上はある程度時間をとりながらすすめていこうと考えました。

◎（10時間目）（1月23日）

- ・教室で音楽跳び箱・マットの表現をグループで計画、相談する

次の日にすべてのグループの演技を見せ、音楽にあったテーマ、場面の变化やスピードや“前”をどう意識させるのか（図でいうと下の部分から撮影をした）について話をしました。一人ひとりの技を確実にやることや技をつなぐことなどが意見としてもでたので、そこを意識しながら教室で話し合いをすすめ、次の時間に発表会をする準備を整えました。

◎11時間目（1月24日）

○音楽跳び箱・マット表現をしよう②

前時の話し合いを経て、練習の時間をとった後、発表会をしました。前回よりも動き方がわかったグループもあれば、どう動いていいかわからない子も多くいた発表となりました。その中で、あるグループはグループを半分に分けて演技をしたり、縦と横のクロスを意識した動きを演じたり、跳んだ後に前転などマットの技をつないでいたところもありました。演技の最後に集まってポーズをするところがあったので、それを急遽取り入れようとするグループが多く、結果あまりまとまりのない発表になってしまいました。

ここまでで11時間ほど跳び箱の学習をすすめてきたので、学年との調整や授業時数の関係もあり、体育として取り組むのはここまでと判断しました。終わった後に子どもたちにどうだったと感想を求めると、楽しかったという反面難しい反応を示している子もいた。どうやら不完全燃焼だったようで、もう一度やりたいという意見が多く聞かれた。特に、発表会より前から体調不良で休んでいた井筒くんがいなかったこともあり、「井筒くんも含めてもう一度29人みんなそろってやりたい」という意見が多く聞かれた。とても嬉しかったです。また、「どう動いていいかわからなかった」から、リベンジしたいという意見もあり、この先は学活の時間などを活用して取り組んでいこうと考えていました。

4. 実践を通して

<成果（自分ができたこと、わかったことも含めて）>

- ・発問を通して跳び方を班やグループで考える学習ができた

どの教科でも発問を意識して学習をすすめてきました。特に国語では一問一答にならず、多様な考えが引き出せる発問をいつも意識しながら取り組んできました。体育の学習でも同じだと考え、学習の前半ではできる限り大きな発問で子どもたちの考えを引き出そうと考えました。特に「後ろ向きに着地するにはどうしたらいいか」という発問で子どもたちはいろいろな跳び方を模索していたのがとても印象に残っている。今までとび箱の学習をしていた時には回転系横跳びこしを見せてやってみるなどしていたが、こうして発問で教えたいことにつなげられる発見をできたのは自分の中ではとても大きかったです。多くの先生方ではすでにやってこられたことでも、自分にとっては大きな発見でした。

- ・「跳び箱はどんな運動？」と子どもたちには問い続けた中で…

学習の間に何度か「とび箱ってどんな運動？」と子どもたちに聞き続けてきました。最初の頃は跳ぶ運動といった答えしか返ってきませんでしたが、学習をすすめていくうちに表現する運動、手をつけて跳ぶ運動、両足踏み切りをする運動、美しく跳ぶ運動などの意見ができました。跳び箱のルールやポイントに関わることがたくさんでくるようになりました。

- ・跳び箱とマットをつながり意識しながら取り組んでいた

跳び箱の学習前にマット運動に取り組みました。動物歩きの中のシャクトリムシの動きを導入時に取

り入れながら側転指導に取り組みました。学習の早い段階から跳び箱を跳んだ後に側転を取り入れるなど、つながりを持って取り組む子が多かったです。

#### ・2連続で跳ぶ学習まではスムーズに学習が進んでいたように感じる

主観的な考えが大きいですが、7時間目までは子どもたちの取り組みの様子や学習の雰囲気もとても良かったように感じます。課題に対する考えも持ちやすく、いろいろアイデアを出しながら取り組んでいたように見えました。なぜなのかと考えると、今までの跳び箱の学習にはなかったたくさんの跳び方を知り、段数を競うのではなく表現を楽しむ学習だったからなのかなと考えます。子どもたちのふり返りの中にも跳び箱に対する感じ方が変わってきているものも多く、器械運動が苦手な河合くんや笹峰さんなどのクラスのリーダータイプの子が前向きにとらえて取り組んでいたことも大きかったのかなと感じます。

#### ・跳び箱の技を“深める”よりかは、跳び箱の技や考えを“広げる”に重きを置いて

この言葉は実践の途中に安武先生からいただいた言葉です。稚拙な実践をすごく肯定的に捉えていただいた素晴らしい言葉だと感じています。テーマだった一瞬を一瞬で終わらせないためにさまざまな跳び方を知ったり、それらをつないだりすることは子どもたちの跳び箱に対する考えを広げることにつながったのかなと考えました。跳び箱の単一の技を深め、表現を楽しむこともひとつの方法ですが、みんなであるいはつないでとび箱の技を表現し、楽しむこともできる可能性があると感じました。

#### <課題>

#### ・音楽跳び箱・マット表現が思っていたようにうまくいかなかったこと

8時間目あたりから難しさを感じましたが、音楽跳び箱・マット表現についてもっと研究が必要だったと痛感しました。実践の途中や終わった後からいろいろところで報告する機会があり、そこで初めて知ったことも含めて考えると、音楽跳び箱・マットをするときに大切な要素は空間の作り方、跳び箱の数や段数、人数、そして音楽などです。

この中で自分が特に反省すべきだったことは表現空間の作り方でした。今回は縦3こ・横4この計12こ（大きささまざま合わせて）の跳び箱を用意しましたが、たくさんある方がいろいろな表現ができて良いだろうと考えていました。ところが、実際に子どもたちがこの空間を見て「跳び箱全部使わない」といった心理が働いたのか、全部を順番に跳ぼうとしたり、真ん中を使わずに両端を回るように跳んだりと、使い方の広がりあまり見られなかったのが大きな反省です。

同様に、跳び箱との間に置いたマットの配置も問題があったように思いました。先に紹介した3年生の跳び箱実践では、両端の跳び箱の間に広いマットの空間をつくることで演技ができましたが、今回は跳び箱と跳び箱をつなぐようにマット配置したため、その道を通らないといけないという心理が働いたようにも見えました。実際にマットからずれて（通らずに）演技しても良いと話しましたが、なかなかそのような動きは見られませんでした。また、前から見て跳び箱の前後にしか外側にマットを配置しなかったため、跳んだ後のマット表現も限られたものになってしまいました。自分の中では、3年生での実践のようにある程度の広さを持った空間があれば自由度は高くなるけれど、今回のような配置でも例えばクロスで跳んでみたり列になって跳んでみたりと、いろいろな演技の見せ方を子どもたちと共有することができればもっと広がりがあったのかもしれないです。ですが、子どもたちの動きとしてはマットが移動の道標的なものだけになってしまったことがとてももったいないと感じました。表現の広がりを深めていくには、やはりマットは方形に敷き詰めるほうが良いと感じた部分でもありました。

また、音楽についても実践途中の報告会で考える視点をもらいました。それは、今回選曲した『ドラ

えもん』はリズムが少し早く、サビに向けての盛り上がり弱い部分があるという指摘をいただきました。子どもから出た意見だったので、できる限り尊重しようと思って選曲しましたが、実際演技をする一つひとつの技が中途半端になってしまったり、リズムが崩れている班がとて多かったです。曲についても、リズムが取りやすく演技しやすい音楽を選ぶ必要があったのかなと感じました。

それらの点を踏まえて、子どもたちに跳び箱やマットの配置、音楽などもある程度選んだり考えたりできる過程をとることもできればいいのではと考えました。実際に自分ももし跳び箱を配置する際、例えば中央に3つ山のように並べて一つはとても高い段を置くといろいろなバリエーションができるかなと考えてみたりもしました。そのような展開はどちらかというと体育の学習だけでは難しい部分もあると思いますが、これから考えていく余地もあるかと思いました。

#### ・開脚とびや台上前転などの指導について

実践のメインは音楽跳び箱・マット表現だったので、そのためにいろいろな技を広げるために横跳びこし中心の技術学習をしました。そのため、学習の中で開脚跳びや台上前転の指導があまりできませんでした。3年生まででできる子も多かったことと、開脚跳びができなくても横跳びこしができることで跳び箱に対する自信を持てると感じたため、力を入れて指導しませんでした。事実、音楽跳び箱・マット表現では台上前転での演技はほとんどありませんでした。ですが、リズム跳び箱など実践途中で何度も開脚跳びに挑戦しているうちにできるようになった子も多く、知らないうちにできるようになっていたという子もいたようです。跳び箱の系統性では開脚跳びは他の跳び方とは異質のものですが、おそらく切り返し系の横跳びこしを繰り返し練習しているうちに、あるいは回転系横跳びこしで腰を上げて跳び越えるうちに、前方への体重移動がわかってできるようになったのかなと自分では考えています。

#### ・跳び箱で教えたことは何か

この指摘も安武先生からいただきました。非常に難しい問いで、聞かれたときに即答ができませんでした。今改めて問われたときもとても悩んでいます。今現在、この問いにはまだ答えられない自分がいます…。

#### 5. 11時間目を終えた子どもたちの反応は…

11時間目からずいぶん時間が空いたのですが、2月25日にこの発表会のビデオをもう一度見せて、改めて思うことについてふり返りを書いてもらいました。

「(なし)」笹峰莉愛

わたしは、あの動画を見て、たぶん7・8班のところがそろっていてすごいなと思いました。だからどのグループもそろえて演技すると、見ている人たちもきれいだなと思えると思います。それと同じ時に同じ演技をするときれいに見えると思います。なので、とび箱はそろえることが一番大事だと思います。

「反省」真鍋あこ

わたしは、難しいフリにしている、みんながわかっていなかったから、もうちょっと簡単なフリにすればいいと思いました。あと、ずっとみんなとやっていたらおもしろくないから、最初らへんは2つに分かれて交互にすればいいと思うし、最後はみんなですればもっとうまくいったと思います。あと、リズムをちゃんととっていたらよかったと思いました。

「つけくわえて…」野村桜羽

わたしのチームでつづくわえをしたいところがあって、とび箱をとんでばかりだったので、ちょっとつづくわえをしたいところがありました。前転とか側転とか開脚前転とかをつづくわえたいなあと思いました。ほかの人とかは上手だったから、自分たちにもつづくわえようと思いました。

「(なし)」山本琥太郎

ぼくは、あの映像を見て思ったことは、リズムが大切だと思いました、なぜならリズムがそろっていなかったら、バラバラになって、大技を出してもきれいにできないからです。特にきれいにできたのは1と2番目にひろうしたとび箱でした。なぜなら、しっかりと行動でができた、サビのところで速くなったりしていたからです。だからすごいと思いました。あと、ぼくが思うには、1番リズムが超大事だとぼくは思いました。

「できた」高本麻帆

わたしは、自分のとび箱を見て上手にできたと思うところは、最後のところです。二人がとび箱に乗ってポーズするところがうまくいったと思います。なぜならポーズをしてしめくりをきゅっとした感じがしたからです。あまりうまくいかなかったところは、はじめのところ。ポーっとして遅れてしまったからです。自分のチームのとび箱に入れたらいいと思うのはマット運動です。マットがあったのにマット運動をしなかったからの方がいいなと思ったからです。

「ぐるぐる回る」中山諒一

ぼくは、とび箱の映像を見て自分のはぐるぐる回るだけ、縦だったり順番に行ったりした方が見る方は楽しかったと思いました。とび箱で飛んだりする前にとっても緊張したけど、本番の時は倍に緊張しました。

「3つ」山口愛海音

ぼくは、めっちゃ前の体育のビデオを見て、ぼくはできていないところがいっぱいあって、3つポイントを考えました。1つめは、ずっと回っていたから他のにしたらいいと思いました。2つめは、はしっこのとび箱は乗ってとんだらいいと思いました。3つめは、まちがっていたのでまちがえずにすることです。これをもしもするならちゃんとしたいです。

「まじわる」石田桜

私が思ったことは、全員で外側だけ使って回るんじゃなくて、真ん中もたくさん使った方がきれいに見えると思いました。だけど最後にとび箱の上に立ってポーズをして終わるのは良いと思いました。私は杉本さんのチームは見ている人から見てとてもきれいだと思いました。なぜなら杉本さんのチームの人たちがとちゅうでまじわっているように見えたからです。

このふり返りを読んで、子どもたちは技をそろえることの大切さ、見せ方についてもいろいろ考えを深めていることを改めて知りました。今回の実践では特に集団で技をそろえることについては弱かった部分なので、次実践の機会があればその点をしっかり押さえたうえで指導していきたいと強く思いました。ビデオを見返し、卒業式が終わった3月中旬ごろにリベンジで音楽跳び箱・マット表現をしようねと子どもたちに話すと喜んでいただけました。2月28日突然の学校終了に戸惑いながら、リベンジは夢となって消えてしまいました。

この実践で学んだことを新しく出会う子どもたちに返していけるよう、また跳び箱について深く学んでいきたいです。